

西垣脩詩集

角川書店

西垣脩詩集

定価 二五〇〇円

昭和五十五年四月二十日 発行

著者 西垣 脩

発行者 角川 春樹

印刷者 熊谷 孝

発行所 角川書店

東京都千代田区富士見二ノ十三
振替東京③一九五二〇八
電話東京265七一一(大代表)

熊谷印刷・若林製本

0092—871106—0946

目 次

I 昭和十三～十七年

桜花恍爛として春に耐へたり
 山院暮日
 朝
 火を思へよ
 神話集
 新しい歴史の詩
 山岳を目指して
 決心
 相聞歌
 鷗の歌
 星夜を流れるもの
 花に嗟くうた
 生命のための我が歌
 花の生理
 願ひ

二〇 二三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

II 昭和二十四～二十九年

河
 喪情
 別離
 故郷はオルゴールの音よ
 天使の手
 薄暮
 成熟
 旅
 霧ぬれの歌
 咏唱
 父に
 せんだんの花
 赤坂見附にて
 暮秋歌
 栴檀夫人

一〇一 一〇二 一〇三 一〇四 一〇五 一〇六 一〇七 一〇八 一〇九 一一〇 一一一 一二二 一二三 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一三〇 一三一 一三二 一三三 一三四 一三五 一三六 一三七 一三八 一三九 一四〇 一四一 一四二 一四三 一四四 一四五 一四六 一四七 一四八 一四九 一五〇 一五一 一五二 一五三 一五四 一五五 一五六 一五七 一五八 一五九 一六〇 一六一 一六二 一六三 一六四 一六五 一六六 一六七 一六八 一六九 一七〇 一七一 一七二 一七三 一七四 一七五 一七六 一七七 一七八 一七九 一八〇 一八一 一八二 一八三 一八四 一八五 一八六 一八七 一八八 一八九 一九〇 一九一 一九二 一九三 一九四 一九五 一九六 一九七 一九八 一九九 二〇〇

西垣脩詩集

I

昭和十三〜十七年

桜花恍爛として春に耐へたり

桜花恍爛として春に耐へたり

桜花恍爛として春に耐へたり

静かなる感情のたかぶりきて

泉の如くわが胸を震はせて湧き

そが中に我が口はすでに溺れうせぬ

掌自ら合はさり

そが尖より虚空へ噴き出づるもの――

何千年昔より我身に流れ込みたる血
見えざる生命いのちの清冽なる噴泉

桜花恍爛として春に耐へたり
桜花恍爛として春に耐へたり

山院暮日

山院は

雷らいと蟬と読経との
薄暮はくごとなり

友禪を組みて三昧に入り

我臆まどに倚りて

桜葉のかそけき風を楽しむ

朝

雨滴^{しづく} 雨滴^{しづく}

激情の夜の名残したたる

空は晴れ

地は笑み

樹の葉はさやぎ

蝸牛這出たる朝

待宵草の花のここだに

さりげなく地にまみれたる

火を思へよ

——人間界に浮沈する脆弱なる賢人たるより

寧ろ曠野に太陽を射る精悍なる愚人となれ——

今日あらねばならぬもの！

文化人よ

原野に帰つて巨大なる焚火をたけ

星も焦げるばかりの

烈しい火焰

それなくして今日の泥濁の地を

如何にして

もとの山野に還元しえよう